

第5学年 「ソフトバレーボール」

1 単元の目標と評価規準

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	ソフトバレーボールの行い方を理解するとともに、チームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。	ルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	ソフトバレーボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
評価規準	<p>知識・技能</p> ①ソフトバレーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。 ②味方のボールをつないだり、相手コートにボールを打ち返したりするボール操作によってゲームをすることができる。 ③ボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。	<p>思考・判断・表現</p> ①ルールを工夫している。 ②チームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ③課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> ①ソフトバレーボールに積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③勝敗を受け入れようとしている。 ④仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤場や用具の安全に気を配っている。

2 単元の指導と評価の計画

時間	1 (導入)	2 (習得)	3 (習得)	4 (習得)	5 (活用)	6 (まとめ)
0	挨拶 健康観察 準備運動 サーキットトレーニング (補助運動)					
	本時のめあての確認					
10	【オリエンテーション】 ・単元の学習内容 ・学習過程と1時間の流れ ・準備や片付けの仕方	スキルアップタイム (チーム練習) ・サービス (下投げ) ・レシーブ ・パス ・トス (キャッチ) ・アタック (スパイク)				
15						
20		スキルアップタイム	試しのゲーム	ラリーゲーム	ゲーム	ソフトバレーボール大会
40	試しのゲーム					
45	整理運動 振り返り 指導者のまとめ 健康観察 挨拶 片付け					
知・技	① 学習カード		③ 観察 学習カード	② 観察 学習カード		
思・判・表		① 学習カード			③ 観察 学習カード	② 学習カード
態度	② 観察	⑤ 観察	③ 観察		④ 観察	① 観察

### 3 展開案①【導入場面】（1時間目／6時間中）

#### （1）本時のねらい

- ・ソフトバレーボールの行い方を理解することができるようにする。
- ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合うことができるようにする。

#### （2）本時の学習評価

- ・ソフトバレーボールの行い方について言ったり、書いたりしている。（知識・技能）
- ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

#### （3）学習過程

時間	○学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
はじめ 15分	<p>1 挨拶、健康観察、準備運動、サーキットトレーニング（補助運動）</p> <p>2 本時のめあてと評価項目の確認（オリエンテーション）</p> <p>めあて ルールやマナーを守り、仲間と助け合いながらソフトバレーボールに取り組み、行い方を理解しよう。</p> <p>評価 ・ソフトバレーボールの行い方について言ったり、書いたりしている。（知識・技能） ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）</p> <p>○本時のめあてや評価項目、単元のめあてや流れを知る。 ・単元を通してどのような力がつくかよいか説明する。（掲示物） ・主な活動内容と6時間の流れを説明する。（掲示物）</p>	
なか 25分	<p>3 活動Ⅰ スキルアップタイム</p> <p>○ソフトバレーボールで必要な動きを知り、ペアで取り組む。 ・必要な動きを指導者が実演したり、説明したりする。 ・オーバーハンドパスとアンダーハンドパスをペアで取り組ませる。 ・ペアでネットを挟んで分かれ、アタックの練習に取り組ませる。一人が5球アタックしたら交代する。その際、もう一人はボールを拾い、ネット下からアタックする人に渡すようにさせる。</p> <p>4 活動Ⅱ 試しのゲーム</p> <p>○ソフトバレーボールの行い方を理解し、試しのゲームに取り組む。 ・ソフトバレーボールの動画を見せ、ゲームをイメージさせたり、ルールの確認をさせたりする。<b>1人1台端末活用ポイント</b> （コート的人数、サーブの仕方、点の入り方、ローテのやり方等） ・試しのゲームに取り組ませる。（3分×4ゲーム×3コート） ・審判と得点は試合を行っていないチームが行う。 ・ルールやマナーを守ること、友達と助け合ってプレーができるような声かけをする。3人が助け合っているプレー等を称賛し、全体に広げる。</p>	<p><b>おおむね満足</b>（観察） ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。</p> <p><b>十分満足</b> ルールやマナーを守り、仲間と助け合うとともに、周りにも促すような声掛けをしている。</p> <p><b>努力を要する児童への手立て</b> ルールやマナーについて再度説明したり、仲間と助け合っている姿を認めたりする。</p>
まとめ 5分	<p>5 本時の振り返り</p> <p>○本時のめあてに沿って振り返り、次時への見通しをもつ。 ・ソフトバレーボールのルールやマナーについて、わかったこと、気付いたこと、楽しかったこと等を学習カードに書かせる。 ・数名発表させ、全体で共有する。 ・めあてに対してよかった児童の姿を紹介し、全体に意識づけたり、次時の内容を知らせたりして、次時につなげる。</p> <p>6 整理運動、健康観察、挨拶、用具の片付け</p> <p>○整理運動、用具の片付け方について理解し、取り組む。 ・片付け方を実際に見せながら説明したり、取り組ませたりする。 ・健康観察で、けが、体調不良などを確認する。</p>	<p><b>おおむね満足</b>（カード） ソフトバレーボールの行い方について言ったり、書いたりしている</p> <p><b>十分満足</b> 行い方について詳しく言ったり、書いたりしている。</p> <p><b>努力を要する児童への手立て</b> 掲示物等で行い方について再度説明する。</p>

【単元のめあてと流れの例】

単元のめあて

ルールを工夫したり、チームで協力したりして、誰もが楽しく参加できるソフトバレーボールをしよう

1時間目

ルールやマナーを守り、仲間と助け合いながらソフトバレーボールに取り組み、行い方を理解しよう。

2時間目

場や用具の安全に気を配りながら、ソフトバレーボールに取り組み、ルールを工夫しよう。

3時間目

ボールを持たないときの動きに気を付けてソフトバレーボールに取り組んだり、勝敗を受け入れたりしよう。

4時間目

味方のボールをつないだり、相手コートにボールを打ち返したりするボール操作に気を付けてソフトバレーボールに取り組もう。

5時間目

ソフトバレーボールに取り組みながら、自分や仲間の考えを伝えたり、仲間の考えや取組を認めたりしよう。

6時間目

チームの特徴に応じた作戦を選びながら、ソフトバレーボール大会に積極的に取り組もう。

【45分間の流れの例】

0 場の準備

1 あいさつ、健康観察、準備運動、サーキットトレーニング

2 本時のめあての確認

3 スキルアップタイム（ペアやチームで基本的な技能の練習）

4 ゲーム（3分間のゲームと1分間の話し合いを3～4回行う）

5 整理運動、振り返り、まとめ、健康観察、あいさつ、片付け

【アンダーハンドパスのポイント】

- ・ボールの方向に体を向けて、ボールの落下点にすばやく入る。
- ・手を組んでひじを伸ばしたままボールを上げる。
- ・パスは、腕は固定したままで行う。（腕を上下にふらない）

【オーバーハンドパスのポイント】

- ・ボールの方向に体を向けて、ボールの落下点にすばやく入る。
- ・手首とひじを曲げて、ボールを指先でとらえる。
- ・ボールをとらえたら、ひじをまっすぐのばし、相手がとりやすいように正確にパスをする。

【練習方法】

- ・1人で壁パスやペアでパス練習をさせる。
- ・上記のポイントを確かめながら練習させる。
- ・タブレット端末等で、パスの様子を撮影したり、示範の動きを見返したりさせる。慣れてきたら示範の動きと自分の動きとのズレから課題に気付かせる。（事前に示範の動画は1人1台端末で見ることができるようしておく）

3 展開案②【習得場面①】（2時間目／6時間中）

（1）本時のねらい

- ・ルールを工夫することができるようにする。
- ・場や用具の安全に気を配ることができるようにする。

（2）本時の学習評価

- ・ルールを工夫している。（思考・判断）
- ・場や用具の安全に気を配っている。（主体的に学習に取り組む態度）

（3）学習過程

時間	○学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
はじめ 10分	1 挨拶、健康観察、準備運動、サーキットトレーニング（補助運動） 2 本時のめあてと評価項目の確認	
	めあて 場や用具の安全に気を配りながらソフトバレーボールに取り組み、ルールを工夫しよう。 評価 ・ルールを工夫している。（思考・判断） ・場や用具の安全に気を配っている。（主体的に学習に取り組む態度）	
なか 25分	3 活動Ⅰ スキルアップタイム ○ソフトバレーボールに必要な動きを確かめ、ペアで取り組む。 ・必要な動きを確かめ、ペアで取り組ませる。 （オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アタックの練習） 4 活動Ⅱ 試しのゲーム ○誰もが楽しく参加できるルールになるように、試しのゲームや話し合いに取り組む。 ・前回の試しのゲームのルールを確かめ、誰もが楽しく参加できるという視点で工夫した方がよいルールを考えさせる。前回の試しのゲームで上手く参加できていないと指導者が感じた場合は、ふさわしいルールを提示し、ゲームで試させる。 工夫の例…キャッチの回数、相手コートに返す回数、ワンバウンドの回数、触球の人数、ローテーションの有無等 ・試しのゲームが済んだら、コートごとに「やってみて」「見ていて」感じたことを交流する。試したルールの工夫について1人一言発言するようにさせる。 ・3分間のゲームと1分間の話し合いを3～4回繰り返しながら、誰もが楽しく参加できるルールへと工夫できるようにする。 ・ルールの工夫しようとして積極的に発言している児童や場や用具の安全に気を配るように周りの友達に促す発言をしている児童を称賛する。	<u>おおむね満足</u> （観察） 場や用具の安全に気を配っている。 <u>十分満足</u> 気を配るとともに、周りの友達に促すような声掛けをしている。 <u>努力を要する児童への手立て</u> 安全面の注意点を再度再度説明したり、コートごとに確認させたりする。
		<u>おおむね満足</u> （カード） ルールを工夫している。（ルールを選んでいる） <u>十分満足</u> 誰もが楽しく参加できるという視点でルールを積極的に工夫しようとしている。
まとめ 5分	5 本時の振り返り ○本時のめあてに沿って振り返り、次時への見通しをもつ。 ・誰もが楽しく参加できるという視点でルールをどのように工夫したらよいか等を学習カードに書かせる。 ・数名発表させ、次回からのラリーゲームのルールを全体共有する。 ・めあてに対してよかった児童の姿を紹介し、全体に意識づけたり、次時の内容を知らせたりして、次時につなげる。 6 整理運動、健康観察、挨拶、用具の片付け	<u>努力を要する児童への手立て</u> 試したルールについてどのように感じたかを問い、ルールの工夫（選択）ができるようにする。

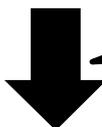
【場や用具の安全に関する注意点】

- ネットを触ったり、寄りかかったりしない。
- ボールを踏んだり、蹴ったりしない。
- ゲーム中は、審判の合図があってから、サーブを行う。
- ボールを渡すときには、渡す相手に声をかけて渡す。
- 使用しないボールはボールかごにしまう。

【ルールの工夫の例】

【1時間目】試しのゲームのルール

- ◆3回で相手コートに返球する。 ◆サーブはアンダーハンドで行う。
- ◆レシーブに不安があるときはキャッチしてもよい。

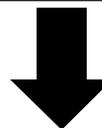


【1時間目の振り返り】

- パスが続かない。
- 触っていない人がいる。(Aさん→Bさん→Aさんの順で返している)

【2時間目】試しのゲーム①<指導者からの提示>

- ◆必ず3人でつないで相手コートに返す。(1人1回ずつ触ってから返球)
- ◆レシーブはワンバウンドでもよい。

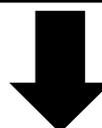


【ゲーム①の振り返り】

- 3人とも触り、ボールもつながりだした。
- サーブが入らず、相手の得点になることが多い。

【2時間目】試しのゲーム②<指導者からの提示>

- ◆アンダーハンドサーブは2回までできる。または、両手下投げでもよい。

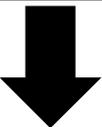


【ゲーム②の振り返り】

- サーブでのミスを心配しなくてよくなった。
- 同じ人がアタックすることが多い。

【2時間目】試しのゲーム③<子供たちからの提示>

- ◆1点入るごとに時計回りにポジションを移動する。(ローテーション)



【2時間目の振り返り】

- アタックできる人が多くなった。
- ボールをキャッチした時に自由に移動している人がいる。

【2時間目】まとめ→次回のラリーゲームのルールへ

- ◆ボールをキャッチした時は移動したらダメ。
- ◆トスの人(2番目)だけキャッチしてもよい。

【変えないルールの例】※第5学年のネット型で付きたい力に関連して

- ◆コートの広さ(バドミントンコート)
- ◆チームの人数(3人对3人)
- ◆ネットの高さ(160cm…バドミントンのネットの高さ)
- ◆相手コートには3回で返球する。

3 展開案③【習得場面②】(3時間目/6時間中)

(1) 本時のねらい

- ・ボールを持たないときの動きによってゲームをすることができるようにする。
- ・勝敗を受け入れることができるようにする。

(2) 本時の学習評価

- ・ボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。(知識・技能)
- ・勝敗を受け入れようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 学習過程

時間	○学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
はじめ 10分	1 挨拶、健康観察、準備運動、サーキットトレーニング(補助運動) 2 本時のめあてと評価項目の確認	
	めあて ボールを持たないときの動きに気をつけてソフトバレーボールに取り組んだり、勝敗を受け入れたりしよう。  評価 ・ボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。(知識・技能) ・勝敗を受け入れようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	
なか 25分	・ボールを持たないときの動きで「ボールの方に体を向けること」「ボールの落下地点に素早く移動すること」が大切であることに触れる。 ・勝敗を受け入れる姿としてどのような態度がよいか問い、考えたことを発表させ、全体で共有する。 (「誰かを責めない」「文句を言わない」「次に切り替えている」等)	
	3 活動Ⅰ スキルアップタイム ○ソフトバレーボールに必要な動きを確かめ、ペアで取り組む。 ・必要な動きを確かめ、ペアで取り組ませる。 (オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アタックの練習) 4 活動Ⅱ ラリーゲーム ○勝敗を受け入れながら、ボールを持たない動きに気を付けてソフトバレーボールに取り組む。 ・掲示物等で、前回までに工夫したルールを確かめる。 ・ラリーゲームが済んだら、ゲームに取り組んでいた児童は「ボールがきたら体を向けていたか」「ボールの落下地点に素早く移動していたか」を振り返り、交流させる。審判係や得点係は、2つのことができていたかどうかをコメントさせる。見る人(審判係、得点係)がコメントしやすいように見るチームをゲーム前に分担する。 ・3分間のゲームと1分間の話し合いを3~4回繰り返しながら、ボールを持たないときの動きを意識しながらゲームに取り組むことができるようにする。 ・何回もボールの方に体を向けたり、落下地点に移動したりしている児童、ゲーム後に勝敗を受け入れるよう周りに促している児童を称賛する。	<u>おおむね満足</u> (観察・カード) ボールを持たない動きによってゲームをすることができる。 <u>十分満足</u> 何度もボールを持たない動きによってゲームをすることができる。 <u>努力を要する児童への手立て</u> 「ボールにへそを向けること」「ボールの落下地点に素早く移動すること」を再度説明したり、チーム練習をさせたりする。  <u>おおむね満足</u> (観察) 勝敗を受け入れている。 <u>十分満足</u>
まとめ 5分	5 本時の振り返り ○本時のめあてに沿って振り返り、次時への見通しをもつ。 ・ボールを持たない動きに気を付けてゲームをすることができたか、勝敗を受け入れることができたか等を学習カードに書かせる。 ・数名発表させ、できていない部分は次回に取り組むように伝える。 ・めあてに対してよかった児童の姿を紹介し、全体に意識づけたり、次時の内容を知らせたりして、次時につなげる。 6 整理運動、健康観察、挨拶、用具の片付け	受け入れるように周りに促す声掛けをしている。 <u>努力を要する児童への手立て</u> 事前に出された望ましい態度を確認し、できそうな振る舞いを選ばせる。

3 展開案④【習得場面③】（4時間目／6時間中）

（1）本時のねらい

- ・味方のボールをつないだり、相手コートにボールを打ち返したりするボール操作によってゲームをすることができるようにする。

（2）本時の学習評価

- ・味方のボールをつないだり、相手コートにボールを打ち返したりするボール操作によってゲームをすることができる。（知識・技能）

（3）学習過程

時間	○学習活動 ・指導上の留意点	評価規準及び 評価方法
はじめ 7分	1 挨拶、健康観察、準備運動、サーキットトレーニング（補助運動） 2 本時のめあてと評価項目の確認	
	めあて 味方のボールをつないだり、相手コートにボールを打ち返したりするボール操作に気を付けてソフトバレーボールに取り組もう。 評価 ・味方のボールをつないだり、相手コートにボールを打ち返したりするボール操作によってゲームをすることができる。（知識・技能） ・パスのポイントや使い分け、アタックのポイント等を再度確認し、それらに気を付けて、取り組むよう伝える。	
なか 28分	3 活動Ⅰ スキルアップタイム ○ソフトバレーボールに必要な動きを確かめ、ペアで取り組む。 ・必要な動きを確かめ、ペアで取り組ませる。 （オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アタックの練習） ・それぞれの技能のポイントができてきているかをチームで見合い、互いに確かめさせる。 4 活動Ⅱ ラリーゲーム ○パスやアタックのポイントに気を付けて、ゲームに取り組む。 ・ラリーゲームが済んだら、ゲームに取り組んでいた児童は「パスやアタックのポイントができていたか」を振り返り、交流させる。審判係や得点係は、2つのことができていたかどうかをコメントさせる。見る人（審判係、得点係）がコメントしやすいように見るチームをゲーム前に分担する。 ・3分間のゲームと1分間の話し合いを3～4回繰り返しながら、ボール操作を意識しながらゲームに取り組むことができるようにする。 ・何回もパスやアタックのポイントを押さえた動きができてきている児童を称賛する。	おおむね満足（観察・カード） 味方のボールをつないだり、相手コートにボールを打ち返したりするボール操作によってゲームをすることができる。 十分満足 何度もポイントを押さえたボール操作によってゲームをすることができる。 努力を要する児童への手立て パスやアタックのポイントを再度説明したり、チーム練習をさせたりする。
まとめ 5分	5 本時の振り返り ○本時のめあてに沿って振り返り、次時への見通しをもつ。 ・ボール操作に気を付けてゲームをすることができたか等を学習カードに書かせる。 ・数名発表させ、できていない部分は次回に取り組むように伝える。 ・めあてに対してよかった児童の姿を紹介し、全体に意識づけたり、次時の内容を知らせたりして、次時につなげる。 6 整理運動、健康観察、挨拶、用具の片付け	

【パスの技能の習熟度を認する学習カードの例】

個人カード ソフトバレーボール		
○ ○ △ ( )年 ( )組 ( )番 氏名 ( )		
技能	内容	印
<b>オーバー ハンドパス</b> 	 ボールを指先でとらえ、手首を使い、ひじをまっすぐのばして、パスすることができた。	
	ボールの方向に体を向けて、ボールの下にすばやく移動し、友だちにパスをすることができた。	
	ボールの落下点にすばやく入って、友だちがとりやすいように正確にパスをすることができた。	
<b>アンダー ハンドパス</b> 	手を組んでひじを曲げずにボールを上げ、パスをすることができた。	
	ボールの方向に体を向けて、ボールの下にすばやく移動し、友だちにパスをすることができた。	
	ボールの落下点に素早く入って、友だちがとりやすいように正確にパスをすることができる。	
<b>サービス</b> 	相手コートに下投げで入れることができる。	
	相手コートにアンダーハンドサービスで入れることができる。	
	ねらったところに打つことができる。	

【引用】(挿絵)  
 スポーツ庁  
 ホームページ

「小学校体育(運動領域)指導の手引き～楽しく身に付く体育の授業～」より

【アタックの技能の習熟度を認する学習カードの例】

個人カード ソフトバレーボール		
○ ○ △ ( )年 ( )組 ( )番 氏名 ( )		
技能	内容	印
<b>スパイク</b> 	 助走、ステップ、ジャンプでスパイクを打つことができた。	
	助走の前に、両うでを後ろに高くふりあげ、しっかりうでをふりあげてスパイクを打つことができた。	
	ジャンプをして片手でボールを強く打つ(スパイクを打つ)ことができた。	